

《フィールド・ノート》

南スマトラ・パレンバンにおけるムハマディヤー運動の現状

利 光 正文

はじめに

人口約三五万を擁するスマトラの都市パレンバンは、南スマトラ州の州都であり、華僑の多住する商業都市でもある。かつてこの都市は、七世紀から一一世紀にかけてスマトラ、マライ半島とジャワにまたがるかなりの領域を支配したシュリーヴィジャヤ海洋王国の首都として繁栄を誇った。またここは、第二次大戦中、石油資源を求めて日本軍の落下傘部隊が降下した地でもあった。

スマトラはジャワと比べるとイスラムの強い所で、北部のアチエーや西部のミナンカバウは、ジャワの人々に言わせると「フアナティック（狂信的）・イスラム」の土地である。これらの地域ほどではないにしても、南スマトラも敬虔なムスリムの地と言えよう。

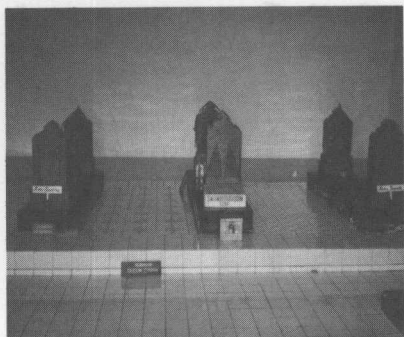
昨年九月一五日より三ヶ月にわたるインドネシア調査（責任者・今永清二広島大学教授）の期間中、一〇日間程パレンバンに滞在し、イスラムの史跡や古文書等を調べた。加えて、筆者の分担研究テーマはムスリム社会の近

代化運動であったので、イスラム改革団体ムハマディヤ（Muhamadiyah）のパレンバン支部を訪れ、その活動状況を調査した。

本稿は、ムハマディヤ運動についてパレンバンで取材・見聞した事柄のごく大雑肥な報告である。

一、パレンバンのイスラム化

海洋国家シュリーヴィジャヤでは、インドからの影響により仏教が栄えた。インドに仏典を求めて旅した唐僧義浄も、その帰路ここに立ち寄っている。しかし、シュリーヴィジャヤの衰退と共に仏教も勢いを失ない、やがて次第にイスラム化されてゆく。パレンバンにイスラム教がいつ頃伝来したのか、詳しい事はまだ分っていないけれども、一〇世紀にはイスラム教徒の居住地があったとの記録がある¹⁾ので、それ以前のことであろう。アラビアやペルシア、インドのムスリム商人がイスラムを伝えたであろうことは十分推測されるが、イスラムの本格的な布教については、一五世紀の初め、マライ半島の西岸に建設されたイスラム王国マラッカの影響が大きい。マラッカ王国はシュリーヴジャヤ衰退の後、マラッカ海峡を通過する東西交易船の中継基地として繁栄した海洋王国であるが、この海峡を挟んで地理的にも近いパレンバンとは緊密な関係を保つ。ユスフ・アブドゥラー・プアルの書いた『インドネシアへのイスラムの伝来』によると、マラッカからのパレンバンへのイスラムの本格的な布教がなされたのは、一五世紀初頭のことであり、一四一四年にマラッカ王がイスラムに改宗して後、ムスリム商人達がパレンバンを訪れ、交易とイスラムの布教に従事した²⁾、としている。



2 スルタン・マフムード・バダルツディン1世の墓



1 スルタン墓の外観

さて、パレンバンのイスラム化を見る場合にもう一つ重要なのは、ジャワとの関連である。シュリーヴィジャヤ衰退後、パレンバンはジャワのヒンドゥー王朝マジャパイトの支配下にはいる。ジャワにイスラムを伝えたとされる九聖人（Wali Sanga）の一人、ラーデン・ラフマツトはスナン・アンペル（Sunan Ampel）の称号を送られ、東部ジャワのスラバヤで布教に従事した。彼はジャワにはいる前、パレンバンで布教を行ない、一四四〇年以前にマジャパイト王家のパレンバン知事アルヤ・ダマルをイスラムに改宗させたと言われる。³⁾

このように見てみると、パレンバンのイスラム化の画期は、大体一五世紀前半の頃と思われる。それ以後パレンバンのイスラム化が進行するけれども、この地を支配したスルタンでは、現在確認されている人物として、スルタン・ジャマルツディン・チャンデイワラン（Sultan Jamaluddin Candiwalang）がいる。彼は、一六六二年から一七〇六年までパレンバンを支配した。⁴⁾さらに、パレンバンには後代のスルタン墓（MAKAM RADJA-RADJA PALEMBANG）があり、そこには一七五六年に死亡したスルタン・マフムード・バダルツディンI世（Sultan Mahmud Badaruddin I）、その息子ススフナン・アフマド・ナジャムツディンI世と孫のスル

タン・ムハンマド・バハウッディン (Sultan Muhammad Bahuddin) が葬むられている。

二、パレンバンのムハマディヤー運動

スマトラにおけるイスラム改革運動の先進地は、西部のミナンカバウであった。この地方は世界でも稀な母系制社会として文化人類学者や社会学者の関心を惹きつけてきた所であるが、イスラムの聖地メッカへの巡礼が盛んな土地でもあった。アラビア半島で起ったイスラム改革を旨すワツハブ運動に影響を受けた十九世紀前半のパドリ運動⁽⁵⁾、カイロで活躍したムハンマド・アブドウーの改革思想に影響されて、一九世紀末から二〇世紀前半に及んだカウム・ムダ (Kaum Muda 若い世代) 運動等⁽⁶⁾が、この地で隆盛を極めている。特に後者が大きな刺激剤となり、一九一二年の十一月、中部ジャワのジョクジャカルタにイスラム改革団体ムハマディヤーが設立された。

K・H・アフマド・ダフランによつて設立されたムハマディヤーは、当初ジャワでの支部作りに精力を傾けた後、一九二六年、ジャワ以外では初めての支部をミナンカバウのパダン・パンジャンに設立する⁽⁷⁾。謂わば、スマトラにおけるイスラム改革運動の逆輸入であった。

所で、パレンバンのムハマディヤー支部は一九二八年に設立されている。設立にあたっては、ミナンカバウの支部より多大の賛助を受けたと言われる⁽⁸⁾。パレンバン支部の歴史的経過については、ここで触れる余裕がないので、次に具体的な活動状況について述べてみたい。

ムハマディヤー運動の内容は、イスラムに混在した異教・異端的要素を排除するイスラム純化運動（宗教改革運動）、学校教育と社会福祉活動の二本柱より成っている。宗教改革運動の具体的事例に関しては稿を改めることにして、特に学校教育を中心に説明を加える。

データが少し古い（一九七四年）けれども、現在と大差はないということなので、パレンバンでムハマディヤーが経営している学校の数と教員・生徒数を先ず見ることにする。小学校（SD）二一、中学校（SMP）七、高等学校（SMA）二、宗教教師養成学校（Muallimin）一、その他職業系や宗教系の学校を入れて総数三八校、そこで教える教師四一〇名、生徒数は八、一五五人であった。⁵⁾ムハマディヤーの学校は私立であり、学校運営資金はムハマディヤー本部からの援助と自前で調達し、インドネシア政府からは殆んど補助を受けていない。それではカリキュラムはどうであろうか。宗教学校はともかくとして、普通科のムハマディヤー小・中・高等学校の場合、パレンバンでは普通教科のカリキュラムは政府発行のものを使用、即ち公立学校と全く同じである。これに反して、イスラムの宗教教育に関するものは、南スマトラ支部で作った独自のカリキュラムを使っていた。宗教教育に費す時間数は、小・中・高等学校を通じて、公立学校では週二時間であるのに、ムハマディヤー学校では週八時間であった。これはパレンバンに限らず、全国平均のようである。

次に、ムハマディヤー普通校で行なわれている宗教教育の内容に目を向けよう。例を高等学校にとると、イスラムに関するもの（Pendidikan Agama Islam）とムハマディヤーについての事柄（Ke-Muhammadiyah）の二つを中心としていた。聖典コーランに関する授業で一例を示すと、コーランの定義（Definisi Al Qur'an）、コーランに盛られた内容（Kandungan Isi Al Qur'an）、コーラン記帳史（Sejarah Pembukuan Al Qur'an）、少しづつ構



3 ムハマディヤー第二高等学校の授業(英語)風景

成されたコーラン (Al Qur'an Dirurankan Berangsur angsur) と法確定におけるコーランの系統性⁽⁹⁾ (Sistematika Al Qur'an Dalam Menetapkan Hukum) であり、高校二年次で教えられていた。

それから、パレンバンのムハマディヤー第二高等学校 (SMA Muhammadiyah II) において、一年生の英語の授業参観を許されたので、その様子を紹介する。校舎はお世辞にも立派とは言えず、教材も不足がちのようであったけれども、教師や生徒達の英語を学習しようとする熱意はひしひしと伝わってきた。ただ、授業の程度が、日本では中学校三年で教えられている内容であり、若干の隔りがあるように感じられた。全体的に教師・生徒ともにのんびりしており、受験に追いまわされている日本の

高校とは趣を異にしていた。

最後に、社会福祉活動について少し触れたい。ムハマディヤーでは社会福祉活動の一環として、病院と診療所 (Klinik) 及び孤児院 (Panti Asuhan) を経営している。パレンバンでは病院はまだないが、診療所と孤児院がそれぞれ一ヶ所づつあった。概して、パレンバンにおいては学校教育にウエイトがかけられ、社会福祉活動は今一步の印象を受けた。

おわりに

以上、パレンバンにおけるムハマディヤー運動について、極めて皮相的に述べてきた。パレンバンではこのほかに、我々調査員と国立イスラム大学 (IAIN Raden Fatah) の教師・学生達との間で、イスラムに関するディスカッションも行なった。ムハマディヤーは、全国に一四校あるこの大学の教師と学生のかかなりの部分に支持者を獲得している。パレンバンにおいても例外ではなく、ムハマディヤー運動に賛同する人々が多いと言うことであった。

所で、パレンバンのムハマディヤー会員・監査役の数は、やはり一〇年くらい前のデータに拠らざるをえないが、八七六名⁽¹⁾であり、正式な会員数ははつきりしなかった。しかしながら、ムハマディヤーの会員には三種の種類がある。第一は会員 (Anggota) で、会費を払い正式に登録している人々。二番目は賛助者 (Simpatisan) で、寄付をしたり行事を支援する人達。第三は大家族 (Keluarga Besar) で、ムハマディヤーの病院・孤児院・学校関係者や学生・生徒まで含む。従って、これらのムハマディヤー運動に支持を表明している人々の総数は、かなりの数にのぼるであろう。

ともあれ、スマトラにおけるムハマディヤー運動、ひいてはイスラム改革運動は、従来西スマトラのミナンカバウにおける運動のみが強調されるくらいがあった。しかしながら、パレンバン (南スマトラ) においてもこの運動が、地味ではあるが着実に進展しているということを、ある程度確認できたと思う。

- (1) 岩本裕「インドウーシヤワのイスラム化について」『アジア文化』一一卷三号 一九七五年。四四頁。
PT Bina Ilmu, Surabaya, 1981, P. 42.
- (2) Yusuf Abdullah Puar, *MASUKNYA ISLAM KE INDONESIA, INDRADJAYA*, Jakarta-Bandung, 1981, P. 84.
- (3) 岩本裕 前掲論文、五三一—五四頁。
- (4) Yusuf Abdullah Puar, *op. cit.*, P. 89.
- (5) この運動については、白石ちや「インカンシマをたぢるアダットとイスラム」『史学雑誌』八三篇六号 昭和四九年。を参照されたい。
- (6) この運動について、Taufik Abdullah, *SCHOOLS AND POLITICS: The 'Kaum Muda' Movement in west Sumatra (1927—1933)*, Ph. D. 1970 Cornell University. 2冊。25°。
- (7) A. Jainuri, *MUHAMMADIYAH: Gerakan Reformasi Islam Di Jawa Pada Awal Abad Kedua Puluh*, PT Bina Ilmu, Surabaya, 1981, P. 42.
- (8) ベトナム文館の設立前後の事情について、タンブヒヤヤー種スプレの著者区泰雲斌 (Ketua Muhammadiyah Wilayah Sumatera Selatan) H.M. Rasyid Thalib 氏に英語を聞いた。氏はシナンカンナの方言で、コトバを「えつる」。
- (9) LAPORAN KERJA PIMPINAN MUHAMMADIYAH WILAYAH SUMATERA SELATAN period Th. 1971 sd. Th. 1974, Pimpinan Muhammadiyah Wilayah Sumatera Selatan, 1975, P. 23.
- (10) KURIKULUM SEKOLAH MENENGAH TINGKAT ATAS BIDANG STUDI : Pendidikan Agama Islam dan Ke-Muhammadiyah 1982, Panitia Penataran dan Loka Karya Guru Al Islam dan Ke-Muhammadiyah Tingkat SMTp dan SMTA Se-Wilayah Sumatera Selatan di Palembang, 1982, P. 19.

(11) LAPORAN KERJA PIMPINAN MUHAMMADI-YAH WILAYAH SUMATERA SELATAN, op. cit., p.33.

附記

本稿は、昭和五八年度海外調査「インドネシア宗教社会の史的実地調査」における成果報告の一部をなすものである。三度にわたるインドネシア調査の機会を与えて下さった今永清二教授に、深甚なる謝意を表したい。

加えて、的はずれな質問にも心よく応じていただき、その上、ムハマディヤー関係の資料を多数提供して下さいましたムハマディヤー南スマトラ地区委員長 H. M. Rasyid Thalib 氏に対しても、心よりの謝辞を述べる。